



発行 ● 狛江市政策室
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
☎3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3
ル・ミリオン・イダ3階A号
☎3430-6617 FAX3430-6743

2021 令和3年 10

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。
お問い合わせ・ご意見は狛江市政策室へ

小規模の利生かしたデイサービス

特定非営利活動法人 むべの会

高齢者の自立を支援

特定非営利活動法人むべの会（大場光子代表理事、和泉本町4-7-27-102 ☎3488-7139）は、すべての高齢者が家にこもらず、地域でその人らしく過ごすために高齢者同士の交流を図り、趣味活動、日常相談などを行うほか、デイサービスへの送迎サービス、高齢者向けの昼食の提供など、高齢者が自立した生活が送れるよう支援している。

同会は、デイサービス事業の対象からはずれた、介

護や支援は要しないが体力維持をしたい高齢者や障がい者にも

気軽にデイサービスを利用してもらうと、ヘルパー資格を持つ人たちが平成9年に結成、同年からデイサービス事業を始めた。当初は公共施設などを利用し弁当も外注して週1回開催したが、徐々に体制を整備し、14年に特定非営利活動法人の認証を得た。15年には現在使っている都営狛江アパートの商店街の一室を借りて床暖房などを設置、



玉入れを楽しむ利用者

高齢者が利用しやすいようにリフォームも行った。

現在、同会は「地域密着型通所介護事業所」として、主に要介護高齢者を対象にしたデイサービス業務と要支援者を対象にした介護予防・日常生活支援総合事業を行っている。1日の利用定員が10人と小規模だが、看護師による健康チェック、目の不自由な人もゲームに参加できるように点字を貼ったカード



の使用、指先や頭を適度に刺激しながら、個人に合わせた手芸や工作で楽しく過ごせるよう工夫している。また、安心・安全な素材を使った家庭的な手作りの昼食が好評だという。

大場代表は「規模の小ささを生かし、利用者が楽しい時間を過ごせるようにしています。コロナ禍で利用者が減りましたが、今後は介護予防事業を充実させていきたい」と話している。

小回りのきくきめ細かいケア提供

特定非営利活動法人 多摩川フレンズ

建築労組が母体に

特定非営利活動法人多摩川フレンズ（菅原節雄代表理事、猪方3-25-37東京土建一般労働組合狛江支部会 館1階 ☎5438-3811）は、市内と周辺の住民を対象に高齢者・障がい者に対する訪問介護・家事援助など介護保険法に基づく在宅福祉サービスを行い、身体

等の介護と高齢者への各種介護支援を通して、高齢者や障がい者が地域社会の中で、安心して自立した生活が送れる社会の実現に寄与することを目的にしている。

建築関連の労働者や一人親方などを対象にする東京土建一般労働組合狛江支部が、将来の組合員の高齢化に備えて平成16年にホーム



ケアマネジャーの三浦さん（左）と竹澤さん

ヘルパー2級（現・介護職員初任者研修）講習会を開き、組合員の家族など25人が資格を取得した。その受け皿として翌年に東京土建の組合員らが出資し特定非営利活動法人を設立、同会館内に事務所を設け、介護

保険制度を基にした高齢者や障がい者向けの訪問介護事業を始めた。

24年にヘルパーの派遣事業は終了し、ケアプランを作成するケアマネジャーの業務を行っている。現在、50代後半から90代後半の主に狛江在住の約80件のケアプランをケアマネジャーの竹澤まみさんと三浦香さんが担当している。2人は「小回りのきく小さな組織のメリットを生かして地域密着のケアをしていきたい」と話している。

地域に広がる様々な助け合いの輪

特定非営利活動法人 アビリティクラブたすけあい 狛江たすけあいワーカーズなかよし

生協組合員らが設立

特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい狛江たすけあいワーカーズなかよし（猫宮保子理事長、和泉本町1-6-15エスポワール 狛江103号 ☎3480-2553）は、乳児から高齢者まで、障がいを持つ人も持たない人も住み慣れた地域でその人らしく安心して生



フラワーアレンジメントサークル (写真提供: 狛江たすけあいワーカーズなかよし)

活できるよう支援することを目的に活動している。

同会は、病気や出産などで家事の援助が必要な場合に地域で助け合う仕組みを作ろうと市内の生活クラブ生協の組合員らが平成5年に結成した会員制の団体が母体。働き手が出資して全員が関わるワーカーズ・コレクティブとして活動を始めた。9年に事務所を開設、13年に特定非営利活動法人となった。

都内で在宅福祉の事業を行っているアビリテ

入居者や地域の共生をめざす

特定非営利活動法人 狛江共生の家

市民団体が建設を計画

特定非営利活動法人狛江共生の家（河西信美理事長、駒井町1-1-2 ☎3430-5020）は、市内の一人暮らしの高齢者が暮らす地域共生の家を拠点として、入居者や地域住民の日常生活や緊急時の支援などを地域ぐるみで行い、地域の力を高め、少子高齢化時代にふさわしい安心で豊かなコミュニティを基盤にした社会の構築を目的としている。

平成14年に市民が集まって「狛江市の高齢者のくらしをよくする会」が発足、

高齢者のための住宅制度の学習、施設見学、アンケート調査などを行い、バリアフリー仕様の高齢者向け共同住宅を計画した。計画に賛同した土地所有者が建物を作り、同会役員らが19年に施設を運営する特定非営利活動法人を設立した。

地域で交流イベント開催

共生の家・多麻は木造2階建て、延床面積約350㎡で、居室14室、食堂、サロンやトランクルームなどがあり、車いすでの移動やエレベーターなど入居者が動きやすいよう配慮が施さ

イクラブたすけあい（特定非営利活動法人ACT）と連携して活動している。

ニーズに合わせ事業拡大

当初は介護・家事・育児を必要とする会員の家庭を訪問し支援する自立援助サービスからスタート。その後、13年に介護保険訪問介護事業、21年に障がい者支援事業を開始、同年に介護のケアプラン作成・相談・認定調査を行う居宅介護支援事業を開業、24年に視覚障がい者の同行援護事業、29年に狛江市介護予防・日常生活支援総合事業を開始した。その他、狛江市委託の移動支援事業（通所・通学の送

迎支援、余暇活動）、育児支援事業（産前産後の人の家事や保育）、ひとり親家庭ホームヘルプサービスを行っており、社会の変化に対応し、時代のニーズに合わせて事業を拡大してきた。

地域を結ぶ活動としてなかよしの利用者や会員を対象とした音楽集会を年1回開催している。また、麻雀、ハワイアンキルト、フラワーアレンジメントなどのサークル活動を定期的に行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休止しているサークルもある。同会では「今後は誰でも参加でき、多世代の交流の場となる『居場所づくり』を目指していきたい」と話している。

れ、訪問診療・居宅介護サービスを利用できる。入居者にはスタッフが家庭料理を用意して作った夕食を提供、バラエティーに富んでいておいしいと好評だ。また、花見や花火などのイベントも催している。



昼食会後のサロンで催すこまえ体操が好評

禍で中断している。ただ、介護家族おしゃべり会は継続して催している。

発足当初は高齢者のグループリビングだったが、令和3年からサービス付き高齢者住宅に変更し、安否確認、相談事業を充実させている。

同会では、エンディングノートの作成をはじめ入居者が本人の希望に添って自分らしく生きられるよう、介護の資格を持ったスタッフなどがサポートし、「終のすみか」として穏やかな最後を迎えられるよう心がけているという。